

「それは大変ですね」の一言から

沖縄行政評価事務所行政苦情救済推進会議座長
弁護士

宮國 英男



1 簡単な自己紹介

私は、生まれも育ちも沖縄で、もうすぐ64歳になります。沖縄から出て生活したのは、司法試験に合格した後の修習期間の2年間、東京での生活を経験しました。東京での生活は刺激的で楽しく、あつという間の2年でした。その後、沖縄に戻り、昭和62年から弁護士を開業しています。



守礼門

2 法律相談

(1) 私なりの相談の心がけ

弁護士という職業は、毎日のように、いろいろな人から、いろいろな法律相談を受けます。私が日頃、法律相談をしていて心がけていることが幾つかあります。その一つは、相談者の話に同調してあげるといことです。そして、少し褒めるということ。いずれも本心から同調し、本心から少し

褒めます。

(2)ある日の法律相談

ある日、次のような相談がありました(事実は多少加工してあります)。

相談者…「先生、借金が多くて、困っています。家族には、内緒にしています。」

私…「借金の原因は何ですか。」

相談者…「親戚の保証人になったことです。親戚が返せないのです、私がサラ金8社からの合計500万円を借りて支払いました。」

私…「その親戚の方はどうされたのですか。」

相談者…「その親戚は逃げてしまっただけで、現在、どこにいるか分かりません。」

ここで、私が、その相談者の父親だったら、「だから、保証人だけになるなど、あれほど言ったじゃないか。」とでも言いたくないところです。

私はこう言いました。

私…「ええ！それは大変ですねえ。」

ここで、相談者の大変な状況に同調してあげます。そうすると相談者から次々と言葉が出て来ます。

相談者…「実は、サラ金から私の勤める会社に催促が来て、それで、会社に居づらくなって、先月会社も辞めました。」

私…「それはさらに大変ですね。ご家族にはなんと。」

相談者…「実は、家族には会社を辞めたこと言えないものですから、朝は、出勤する振りをして、一日、街をぶらぶらしています。」

「家族に嘘はいけませんね。」と言いたくなる場面でした。

私はこう言いました。
私…「そんなことしていたら、死にたくなって死んでしまうかも知れませんよ。」

相談者があまりにも思い詰めた表情だったので、私はそう言いま

した。

続けて、相談者はこう言いました。

相談者…「そのとおりです。先生、もう死にたいです。死のうかどうか迷って、先生のところに来ました。」

「なに馬鹿なこと言っているんだ。」と言いたい気持ちを抑えて、私はこう言いました。

私…「そうだよ。死にたくなるよ。」と。

さあ、ここからが死なないで済む方法の相談であり、褒め言葉が必要です。

私はこう言いました。
私…「でも、僕の所に来る勇気をよくぞ出してもらいました。」

その後は、自己破産という法律上の手続きを取って、借金を帳消しにして、無事に現在もこの相談者には、生きてもらっています。お孫さんも生まれて幸せそうです。

3 沖縄行政評価事務所の ある事例

(1) 事案

行政相談委員から、高齢者の方が、運転経歴証明書の交付を受けるために、「遠方にある運転免許センターや安全運転学校に赴くのは負担」との声があるとの委員意見が寄せられました。

事務所で調査したところ、沖縄県ではこれまで、運転免許の自主返納に伴う運転経歴証明書の申請及び交付の窓口は、県内1か所の運転免許センターと県内4か所の安全運転学校に限られていました。

また、全国の都道府県の中で、警察署での手続を行っていないのは、沖縄県を含む3県のみということもわかりました。

(2) 行政苦情救済推進会議における 議論

沖縄行政評価事務所行政苦情救

済推進会議は、私を含め6名の民間有識者で構成されています。

行政相談や委員意見の処理に当たって、沖縄行政評価事務所（以下「沖縄事務所」と略）が判断に迷う事案について、沖縄事務所からレクを受け、それぞれ専門のお立場から、自由に議論してもらう形を採ります。この事案に関しては、次のような議論でした。

「そもそも、運転免許センターや安全運転学校まで行くことは、そんなに負担でしょうかね。」

「それは負担ですよ。運転免許証を返納するほとんどの方が高齢者ですよ。近ければ近いほどいいですよ。」

「しかし、警察署の事務も増えるし、近くの安全運転学校まで行ってもらってもいいんじゃないですか。」

「それはどうでしょうか。警察署でやっていないのは、全国で沖縄県を含む3県くらいですよ。他

県と同じサービスを受けることができるべきじゃないでしょうか。」

「それに、運転免許の自主返納の促進にもつながりますよね。」
など、様々な意見交換が行われました。そして、推進会議の意見がまとめられました。

(3) 参考意見

沖縄事務所では、行政苦情救済推進会議の議論を踏まえて、沖縄県警察本部に対し、「運転経歴証明書申請及び交付の窓口の拡

行政苦情救済推進会議メンバー

氏名	役職等
古波鮫 勝 美	沖縄行政相談委員協議会会長
田 端 一 雄	(一社)沖縄県経営者協会常務理事
仲宗根 京 子	NPO法人 消費者センター沖縄理事長
西 山 千 絵	琉球大学大学院法務研究科准教授
宮 城 修	(株)琉球新報社論説委員長
(座長)宮 國 英 男	弁護士(元沖縄弁護士会会長)

(注)五十音順、敬称略

大」等を求める参考連絡をしました。

これを受け、令和2年3月から、沖縄県内にある14か所の警察署で運転経歴証明書の申請及び交付ができるようになりました。

4 行政相談の意義

「最寄りの警察署でも運転経歴証明書の申請や交付が行えるようにしなければならぬ。」という法律はありません。したがって、この問題を法律で解決しようとしてもそれは難しいところです。

しかし、行政相談なら、その解決の方策がありますし、事実、それができました。ここが法律相談との大きな違いです。法律相談では、事案解決のための法律が必要であり、冒頭に紹介した事案も、破産法という法律を使って解決したものでした。

しかし、行政相談の場合、法律の制定されていない事案において

も、解決可能なのです。市民の方々の困りごとにはいろいろあります。その中には法律で解決できるものも多いですが、行政相談は、法律で解決が難しいところを解決できるところが魅力の一つです。

運転経歴証明書の事案の相談を受けた行政相談委員は、恐らく「そうですね。それは大変ですね。」と取り上げて、委員意見にしてくれたのだと思います。これが契機となつて、今後、沖縄県内における運転免許の自主返納を考えている方々に対して、どれだけ多くの便宜を提供することになったのだろうと考えます。

5 行政相談委員は今日も待っている

相談者は、大体的場合、どきどきしながら相談に来るもので、「こんなこと相談していいのかしら。」と考えているものです。

行政相談委員の皆さんは、どのような顔で相談者を迎えているのでしょうか。ある委員は笑顔で、ある委員はしかめっ面でと、それぞれの個性に応じて、個性のある相談を受けているのであろうと想像します。

相談者が行政相談所の門をたたくことで、相談が始まり、行政相談委員が相談者の抱えている問題を取り上げ、問題点の改善が促されます。そして、改善された点は、国民全体の共有財産となつていきます。その最初のきっかけとして行政相談委員の皆さんが、今日も窓口を広くして、待っている。

このシステムがさらに機能することに期待しないわけにはいきません。

きくみみ沖縄



総務省行政相談センター

沖縄版
「エイサーキクーン」